

笠置町
まち・ひと・しごと創生戦略

令和7年1月改定
京都府笠置町

目 次

I. 笠置町まち・ひと・しごと創生戦略について	1
策定の趣旨	1
対象期間	1
創生戦略の位置づけ	1
評価・検証の仕組み	2
II. 笠置町の創生戦略の基本となる考え方	3
第1期笠置町まち・ひと・しごと創生戦略を振り返って	3
第2期笠置町まち・ひと・しごと創生戦略の基本目標	4
III. 笠置町の創生戦略	5
笠置町の創生戦略の全体像	5
1. 新しい人のつながりと流れをつくり、まちを活性化する	6
交流の拡大と産業振興	6
移住・定住の促進	8
2. 安心して暮らせるまちをつくり、結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現する	10
暮らしを守る機能の維持・強化	10
出生率の上昇	12
3. 新しい時代の流れを力にするとともに、多様な人材の活躍による魅力あるまちをつくる	13
時代の流れと多様な人材による地域活力の維持	13

1. 笠置町まち・ひと・しごと創生戦略について

策定の趣旨

- 加速する人口減少や少子高齢化に対応するため、国は、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方における「まち・ひと・しごとの創生の好循環」を確立し地方への新しい流れを生み出すため、「稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする」「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」という4つの政策パッケージを提示しました。
- 笠置町においても、社会的な少子高齢化の影響や、近郊の中核都市である木津川市や伊賀市、大阪府・奈良県といった都市部への若者を中心とした人口の流出等により、1995年の2,223人から2015年には1,368人（20年間で855人の減少）にまで人口が減少しています。また、「笠置町人口ビジョン」（以下、「人口ビジョン」という。）で示したように、本町の趨勢人口は今後も減少傾向で推移し、2040年には740人程度、さらに2060年には410人程度にまで減少することが見込まれました。
- 少子高齢化を背景とする人口構造の変化や人口減少は、本町における経済活動やコミュニティ活動等の活力を衰退させ、ひいては本町における安定した生活・暮らしそのものの存立を脅かす事態となることが危惧されることから、笠置町では、平成28年1月、国・府の総合戦略を勘案しながら、2040年の戦略人口（目標人口）888人の実現とともに、人口減少に伴う地域課題に対応するために、今後町がめざすべき方向性を示す「笠置町まち・ひと・しごと創生戦略」（以下、「創生戦略」という。）を策定し、第1期の地方創生事業に取り組んできました。
- しかし、引き続き、少子高齢化による地域課題への対応に向けた取り組みが必要であることから、第2期笠置町まち・ひと・しごと創生戦略を策定するものです。

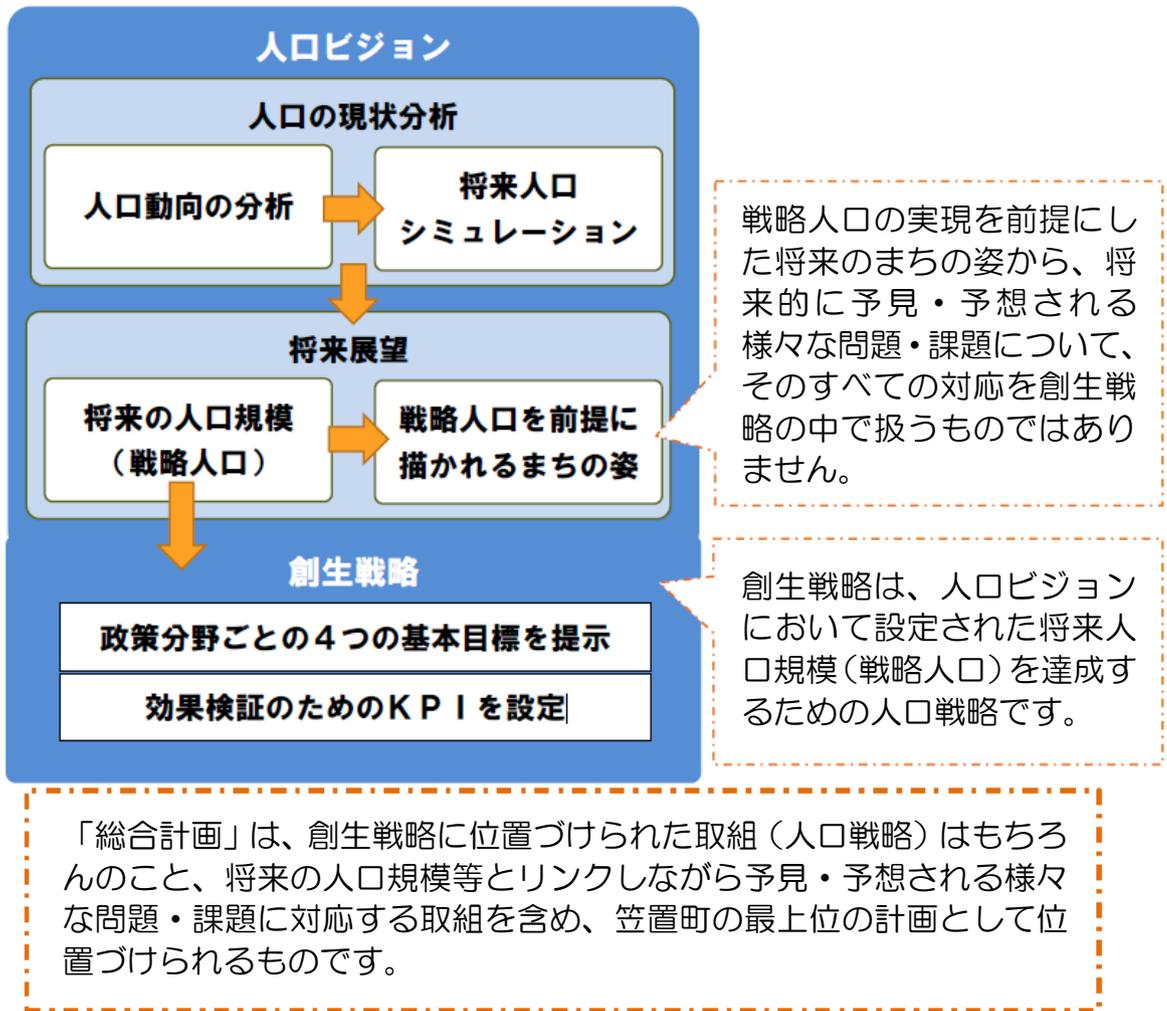
対象期間

- 創生戦略の対象期間は、令和3年度から令和7年度までとします。

創生戦略の位置づけ

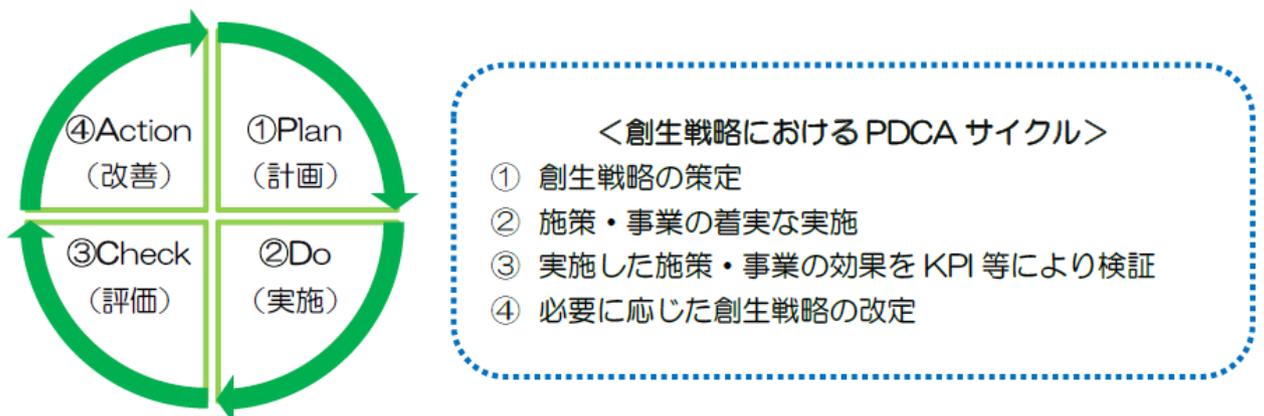
- 創生戦略は、人口ビジョンで示す戦略人口を達成するために必要な2つの基本目標と1つの横断的な目標を示すものです。また、各政策分野を構成する施策については、効果を客観的に検証するためのKPI（重要業績評価指標）を設定しています。

〔「人口ビジョン」「創生戦略」と「総合計画」〕



評価・検証の仕組み

- 創生戦略については、計画の推進をより実効性あるものとするために、評価・検証とともに、その結果を踏まえ、必要に応じた計画の見直しを行うものとします。
- そのため、『PDCAサイクル』による評価・検証の仕組みを確立するとともに、評価・検証の客観性・妥当性を担保するため、外部有識者等の参画する評価・検証組織を設置します。



II. 笠置町の創生戦略の基本となる考え方

第1期笠置町まち・ひと・しごと創生戦略を振り返って

○笠置町では、『住民と行政が一体となれるコンパクトなまち』、『四季の風物詩があるまち』、『豊富な観光資源のあるまち』という町の強みや住民ニーズ、アンケートやワークショップなどの住民参加の場で提案された住民のアイデアを勘案した「コンパクトタウン構想」に基づき、「多様な人材の活躍により、笠置町における安定した雇用を創出する」「人を惹きつけ、笠置町への新しいひとの流れを創出する」「結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現する」「地域が連携し、安心して暮らし、助け合えるまちをつくる」という4つの基本目標に沿った取り組みを進めてきたところです。

参考：コンパクトタウン構想の考え方

コンパクトタウン構想とは、若者から高齢者まで多世代の住民が集う場を作り、新しい地域の活動や雇用の創出、地域の資源を活かした新たな人材や産業の受け入れ等、まちの活性化をもたらす機能を集約した「①未来を拓く拠点機能」、日常生活サービス機能である医療・介護・健康、住民の暮らしを守る機能である防災、住民の見守り・助け合える機能等を集約した「②暮らしを守る拠点機能」を笠置駅周辺に集積し、各地区の住民及び観光客を含め、誰もが利用できる機能的なコミュニティ交通の再整備により連携する「個性的でコンパクトなまちづくり」をめざすものです。

「①未来を拓く拠点機能」整備の例（ワークショップと連携）

- ◇駅周辺の商店街にある空き家・空き店舗の活用
 - ※地方創生先行型事業において、空き家の利用促進を図るための家具一時保管コンテナを整備
 - ※商店街の活性化拠点整備（起業開業活動支援等）
- ◇中核施設の一つである笠置駅の再生プラン
 - ※地方創生先行型事業において、駅トイレの改修を実施
 - ※京都府駅再生プランと連携した笠置駅再生事業の実施
 - ※笠置駅を起点とした観光拠点間の誘導や回遊性向上施策の実施

「②暮らしを守る拠点機能」整備の例

- ◇公共施設（機能）の統廃合を見据えた、中核施設としての多世代・多機能施設の整備
- ◇情報機器の活用（防災、教育、児童・高齢者福祉、観光等）
 - ※地方創生先行型事業において、ICT活用事業を実施
- ◇生活交通確保の有償運行や住民主体の互助活動事業の推進

○第1期の取り組みにおいては、駅舎改修や多世代・多機能施設の整備による基盤づくり、マルチメディアやホームページによる情報発信、ふるさと納税の特産品など、KPIの達成率が80%以上となった指標が全体の半分弱を占める一方、空き家バンク登録物件数など、KPIの達成率が50%未満となる指標が全体の3割弱程度を占める結果となっています。

○また、人口の移動数や出生数においては、目標を大きく下回っており、当町の喫緊の課題である少子高齢化への対応が不十分な状況です。

○第2期においては、子育て施策等を含めた移住・定住政策の充実を図り、転出抑制を図るとともに、既存の資源を活かすことによる活性化の取り組みを図っていく必要があります。

第2期笠置町まち・ひと・しごと創生戦略の基本目標

○第2期の笠置町創生戦略の策定においては、第1期の取組や国・府の総合戦略などを踏まえ、「新しい人のつながりと流れをつくり、まちを活性化する」、「安心して暮らせるまちをつくり、結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現する」の2つの基本目標と、「新しい時代の流れを力にするとともに、多様な人材の活躍による魅力あるまちをつくる」の1つの横断的な目標を設定します。

Ⅲ. 笠置町の創生戦略

笠置町の創生戦略の全体像

基本目標(目標指標、令和7年度)	施策の枠組み	具体的な施策
1. 新しい人のつながりと流れをつくり、まちを活性化する ◇移動数(転入-転出) ▲46人 ◇観光入込客数 206,000人/年 ◇観光消費額 700,000千円/年	交流の拡大と産業振興	①新しい人の流れの創出 ②交流拡大による産業の活性化
	移住・定住の促進	①住まいの確保 ②移住・定住情報提供の仕組み等の構築

2. 安心して暮らせるまちをつくり、結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現する ◇出生数 20人 ◇婚姻数 25組	くらしを守る機能の維持・強化	①防災・減災対策 ②交通利便性の向上 ③地域コミュニティの形成
	ワンストップによる子育て支援の充実	①子育てしやすい環境の整備

横断的な目標	施策の枠組み	具体的な施策
新しい時代の流れを力にするとともに、多様な人材の活躍による魅力あるまちをつくる	時代の流れと多様な人材による地域活力の維持	①新しい時代の流れを力にする ②多様な人材の活躍を推進する

※「目標」及び「KPI」の目標値について、特に記載がないものは5年間の累計(P6以降も同様)

1. 新しい人のつながりと流れをつくり、 まちを活性化する

移動数（転入－転出） ▲ 46人
観光入込客数 206,000人／年（R6年度）
観光消費額 700,000千円／年（R6年度）

交流の拡大
と
産業振興

- 町内の地域資源を活用して観光地としての魅力を高め、広く情報発信するとともに、周辺自治体等の関係機関との連携を推進することにより、交流人口・関係人口の拡大を図ります
- 交流の拡大を活かして産業の活性化を図ります

[具体的な施策]

①新しい人の流れの創出

機会を捉えたマルチメディアを活用した観光情報の発信、ふるさと納税の特産品の充実、関係機関や周辺自治体との連携事業等により、引き続き、観光客や事業者の誘致を検討・推進するとともに、町に関わる人がより魅力を感じられるようにし、交流人口や関係人口などの新しい人の流れを創出していきます。

◎施策の目標

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
マルチメディアによる 情報発信回数	53件 (H27～R2年度)	150件
ふるさと納税特産品数	45品目 (R2年度)	120品目 (R7年度)

<主な事業>

- ◇集客促進連携事業を活用した取組（お茶の京都連携事業、東京都渋谷区との連携事業等）
- ◇相楽東部未来づくりセンター事業
- ◇マルチメディアによる観光等情報発信の推進
- ◇ふるさと納税推進のための特産品の設定
- ◇公共無線LANの整備

②交流拡大による産業の活性化

第1期においては、町外在住者等が、町内で起業や、飲食店を出店するなどの動きがありました。

第2期においても、新しい人の流れを活用し、観光を中心とした産業の活性化を図っていきます。

◎施策の目標

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
誘致事業者数	5件 (H27~R2年度)	5件
サテライトオフィス誘致事業者数	0件 (R2年度)	5件

<主な事業>

- ◇商店等を含めた企業誘致の推進
- ◇サテライトオフィスの利用促進
- ◇新たな特産品・名産品の開発
- ◇空き家・空き店舗の改修支援
- ◇合併処理浄化槽設置事業補助金の導入
- ◇創業セミナー等の開催支援

移住・定住 の促進

- 移住希望者への情報提供や空き家の活用等、移住・定住の受け皿に関する総合的な環境整備を図ります
- 定住意向のある町出身の若者が、結婚等を経ても定住できるよう、必要な情報提供など総合的な環境整備を図ります

[具体的な施策]

①住まいの確保

移住・定住希望者の住まいの確保のため、空き家の状況の把握に努め、空き家バンクへの物件提供を促進します。また、商工会加入店舗への新規就業者や三世代同居・近居のUJIターン者等への住宅取得費用の補助制度を推進します。

◎施策の目標

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
空き家バンク登録物件数	1件 (R2年度)	20件
住宅取得費用等の補助制度 活用者数	4件 (H27~R2年度)	10件

<主な事業>

- ◇空き家調査と連携した空き家バンクへの物件提供促進
- ◇空き家バンク登録に向けた活用支援
- ◇三世代同居・近居のUJIターン者等への住宅取得（改修）費用の補助制度
- ◇子育て世代向け住宅の整備の検討
- ◇【再掲】合併処理浄化槽設置事業補助金の導入

②移住・定住情報提供の仕組み等の構築

笠置町への移住時に加え、移住後の定住の段階におけるサポートを強化するため、笠置町HPや地域おこし協力隊・集落支援員等の活用など、移住・定住にかかわる情報を広く収集・発信するための仕組みづくりを推進します。

◎施策の目標

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
ホームページのアクセス数	179,950件/月 (R2年度)	257000件/月 (R7年度)

<主な事業>

- ◇笠置町HP等を活用した情報収集・発信
- ◇地域おこし協力隊・集落支援員等の導入推進

2. 安心して暮らせるまちをつくり、結婚・妊娠・ 出産・子育ての希望を実現する

出生数 20人

婚姻数 25組

くらしを守る
機能の
維持・強化

○安心して暮らせるよう防災・減災対策の強化や、交通利便性の改善に努めます

○人口減少に伴う行政サービス等の質の低下を防ぎ、持続的・自立的なまちを形成するため、既存ストックマネジメントや地域の連携等を促進・強化します

[具体的な施策]

①防災・減災対策

防災備蓄の拡充や、近隣自治体や関係者との連携強化、総合的な空き家対策等により、防災・減災体制強化を図ります。

◎施策の目標

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
防災協定の締結数	17団体 (R2年度)	28団体 (R7年度)
空き家データベースの更新	作成 (R2年度)	更新 (R7年度)

<主な事業>

- ◇近隣市町村や関係事業者等との防災協定の締結
- ◇防災備蓄の充実
- ◇空き家調査による空き家データベース化の推進
- ◇倒壊等の恐れのある危険家屋撤去に向けた助言・指導等
- ◇防災施設整備等に係る関係機関への要望

②交通利便性の向上

第1期においては、町バスの乗降や送迎等のスペース確保のための笠置駅前広場の整備や、町の玄関口としてJR笠置駅等周辺施設利用の利便性を高めるなどの取組を行いました。

令和3年3月 JR 関西本線にICOCAが導入されたことから、第1期の取組の成果と併せ、活用を図ることにより、JRの電化等を促進します。また、町内循環バス及び相楽東部広域バスの運営形態の改善などを検討し、交通利便性の向上を図ります。

◎施策の目標

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
笠置駅舎の利用者数	199人/日 (H30年度)	200人/日 (R7年度)
町内循環バス等の利用者数	831人/月 (R元年度)	1,000人/月 (R7年度)

<主な事業>

- ◇町内循環バスの運営形態の改善
- ◇相楽東部広域バスの運行
- ◇JR電化促進
- ◇国・府道拡幅要望、町道の整備

③地域コミュニティの形成

住民参加型のワークショップなど、まちづくりへの住民参加の機会づくりを行います。また、住民等が地域において主体的に取り組む活動への支援を推進します。さらに、行政及び住民活動の中で情報機器の活用を検討・促進し、拠点間連携等、暮らしやすく魅力あるまちづくりの実現をめざします。

◎施策の目標

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
地域で活動する組織等への支援実施回数	6件/年 (R2年度)	10件/年 (R7年度)

<主な事業>

- ◇ワークショップの開催
- ◇互助活動事業の推進
- ◇情報機器を活用した事業（防災、教育、児童・高齢者福祉、観光等）

出生率の上昇

- 子育て世代 包括支援センター を中心に、結婚から妊娠・出産・子育てまで、切れ目のない支援ができる環境を創出します
- 経済的負担が子どもを持つことへの歯止めとならないように、子育て世帯等への経済的な支援を行います
- 子育て環境の整備・充実により、子育て世帯の負担軽減を図ります

[具体的な施策]

①子育てしやすい環境の整備

若い世代の妊娠・子育てにおける経済的負担を軽減するための各種助成の実施による経済的支援や、笠置町の少人数による保育・教育環境を活用した、きめ細やかな子育て支援を推進するなど、安心して子育てできる環境を整え、移住・定住施策と連携することにより、人口減少の抑制を図ります。

◎施策の目標

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
結婚新生活支援実施回数	— (R2年度)	5件/年 (R7年度)

<主な事業>

- ◇不妊症治療費・子ども医療費、多子世帯の保育料や放課後児童クラブ利用料の軽減事業の助成拡充
- ◇若者夫婦や子育て世帯に対する公共料金等軽減事業
- ◇結婚新生活支援事業
- ◇家庭的で気軽に結婚から子育てまで話し合える場所の創出
- ◇保育所の保育時間の延長
- ◇少人数学級を活かしたきめ細かな学習事業
- ◇企業へのワーク・ライフ・バランスの啓発
- ◇他の自治体と連携した出会いの場のイベント開催

新しい時代の流れを力にするとともに、 多様な人材の活躍による魅力あるまちをつくる

時代の流れと
多様な人材に
よる地域活力の
維持

○基本目標の達成を目指すにあたっては、「新しい時代の流れを力にする」及び「多様な人材の活躍を推進する」の2つの新しい視点を考慮します

①新しい時代の流れを力にする

IoT（Internet of Things）や人工知能（AI）などの新しい技術は、モノやサービスの生産性や利便性を飛躍的に高め、産業や生活等の質を大きく変化させ、地域の魅力を向上させるものと期待されています。当町においても、情報通信基盤等の実証実験などを検討していきます。

また、持続可能なまちづくりや地域活性化のために、SDGsの理念に則った取り組みを推進していきます。

②多様な人材の活躍を推進する

地方創生の実現は、取組を担う多様な人材の活躍によってもたらされるものであり、誰もが、年齢、性別、障がいの有無、国籍、宗教などの違いによって分け隔てられることなく、多様な属性を有する一人ひとりが、個性を活かして輝くことができる社会の実現を目指した取り組みを検討していきます。